

# 平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 16 日

施策No.	23	施策名	幼児教育の充実
主管課名	こども課	主管課長名	川上 昭
関係課名	教育総務課 学校教育課		

施策の目的 【対象】	①未就学児	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
		①-1.幼稚園児数	人	118	117	108	108	108	
		①-2.保育園児数	人	1,599	1,535	1,410	1,410	1,410	
		①-3.その他(未就園児)	人	586	520	647	647	647	

施策の目的 【意図】	(対象①) ①教育を受けられる環境が整備され、教育内容も充実している。	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
		①-1.幼保小交流活動参加人数(回数)【幼稚園2園】	人	614	981	1,070	1,000	1,000	
			回	11	11	17	17	17	
		①-2.高齢者・地域との活動参加人数(回数)【幼稚園2園】	人	909	902	1,660	1,700	1,700	
			回	9	10	12	12	12	
		①-3.育児サロン参加人数(幼稚園・保育園を含む。)	人	3,815	3,271	4,122	4,200	4,200	
園	12		10	10	10	10			

成果指標設定の考え方	<p>①-1～2.園児が心身ともに健全に育つためには、様々な交流を通して体験活動を行うことが不可欠であることから、保護者に交流を通じて心身が健全に育っているかどうかを聞くことで、園児が健全に育っているかどうかわかるので、これを成果指標とした。</p> <p>①-3.保護者は、就園児、未就園児を問わず、子育てサロンで、子育て相談をしたり子どもを活動させたりしている。この活動への参加人数を見ることで保護者の幼児教育への要求度を推測できるので、これを指標とした。</p>
------------	--

成果指標の把握方法(算定式等)	<p>①-1～2.こども課の調査資料により把握。</p> <p>①-3.社会福祉課、市健康センターでの調査結果により把握。</p>
-----------------	---

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	・家庭では、親子がふれ合う時間を十分にとり、正しい生活習慣を身につけさせていただく。
	市	・園児は日ごろ限られた集団の中での活動が多いことから、他団体等との交流機会を支援する。 ・育児サロン開催について、開催場所や人的支援等を行う。
	その他	・(地域)地域の様々な活動に子どもたちが参加し、交流できる機会を作ってもらう。

